

2025年10月19日 コロサイ3：11－14

説教題 「愛は、すべてを完全に結ぶ帶」

【今日の説教から】

先週の箇所の最後のところにはこうありました。

「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。」

真の知識とは何でしょうか。

「キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。…あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから…あなたがたもゆるし合いなさい。これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帶である。」

これが真の知識、完全なる知識であり律法です。

「律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」というこの一句に尽きる」(ガラテヤ5：14)

「そこには、もはやギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり…」との記述は興味深いです。ユダヤ人はギリシャ人を異邦人と言い、自分たちは割礼の民であり、無割礼の異邦人ではないと言います。しかしギリシャやローマの人たちは自分たちは未開の人や、(自分たちの宗教になぞらえて)異教徒や無神論者や異端者ではないと言います。自由人たちは自分は奴隸のような身分ではないと言います。人々は互いに違いを持ち、互いに壁を持ち、分断しています。そこを結び合わせるのがキリストにある神の愛です。赦しの愛なのです。

序 御言葉の引用 分断を乗り越える主の愛

ヨハネ4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。

4:8 弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。

4:9 すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。

4:10 イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。

4:11 女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか。

4:12 あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。

ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。

4:13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

4:15 女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてよいように、その水をわたしに下さい」。

4:16 イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行って、ここに連れてきなさい」。

4:17 女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もっともだ。

4:18 あなたには五人の夫があつたが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。4:19 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます」。

4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る」。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである」。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、靈とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである」。

4:24 神は靈であるから、礼拝をする者も、靈とまこととをもって礼拝すべきである」。

4:25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。

4:26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。

4:27 そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。

4:28 この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、

4:29 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。

4:30 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。

4:31 その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。

4:32 ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。

4:33 そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげたのであろうか」。

4:34 イエスは彼らに言われた、「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたの

みこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。

4:35 あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畠を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている。

4:36 刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共々に喜ぶためである。

4:37 そこで、『ひとりがまき、ひとりが刈る』ということわざが、ほんとうのこととなる。

4:38 わたしは、あなたがたをつかわして、あなたがたがそのために労苦しなかったものを刈りとらせた。ほかの人々が労苦し、あなたがたは、彼らの労苦の実にあずかっているのである」。

4:39 さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた」とあかしした女の言葉によって、イエスを信じた。

4:40 そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつか滞在された。

4:41 そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

4:42 彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。

何か急に冬になった気がいたします。先週の日曜日はうっすらと冷房をつけていたのですが、今日は暖房をつけております。日中はまだ半袖でちょうどいい、動くと暑くなる晩夏から秋を通り越して、暖房とこたつの恋しい初冬に入ったようです。今週の水曜日の最低気温は0度になるとか。なんともびっくりしています。皆様はお元気にお過ごしでしたでしょうか。

石破前首相退任時の談話

「厳しい状況の中にあって真摯（しんし）かつ丁寧に各党各会派に向き合い、主権者である国民に誠実に語る姿勢を持ちたいとの思いで全力を尽くした」「与野党にも支えてもらい、多くの国民にも支援をいただき、本当に心より感謝しています」高市早苗新内閣に対しては「分断と対立ではなく、連帯と寛容。国民一人一人に謙虚に真摯に誠実に（向き合う）、そういう政権であってほしい」と求めた。

「我が自民党は、今さえよければいいとか、自分さえよければいいとか、そのような政党であっては決してなりません。寛容と包摂を旨とする保守政党であり、眞の国民政党であらねばなりません。我々自民党が信頼を失うことになれば、日本の政治が安易なポピュリズムに墮することになってしまうのではないかと、その危惧を私は強めております。」

わたくしたちの同胞キリスト者である石破茂氏が386日の内閣総理大臣の務めを終えて21日に退任しました。

「真摯（しんし）かつ丁寧に各党各会派に向き合い、主権者である国民に誠実に語る姿勢を持ちたいとの思いで全力を尽くした」、「寛容と包摶を旨とする保守政党であり、眞の国民政党であらねばなりません」、「分断と対立ではなく、連帯と寛容。国民一人一人に謙虚に真摯に誠実に（向き合う）、そういう政権であってほしい」

これらの言葉は大変に素晴らしいものでした。そして石破首相による戦後80年所感も、再び戦争を起こさないという決意に満ちた建設的で素晴らしいものでした。

マタイ 5:9 平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。

私たちもまた、地の塩、世の光として次の御言葉を体現するのです。

マタイ 5:13 あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。

5:14 あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

5:15 また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。

5:16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたの父をあがめるようにしなさい。

ピリピ 2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

私たちはできないとか、荷が重いとか、それは大役だなどとしり込みをする必要はありません。疲労と頑張って光るのではなくもうすでに光となっているのです。私たちが出来るのは、その光を輝かせるか隠すかなのです。私たちは臆することなく、私たちの私たちらしさを発揮していけばよいのです。

この光の証しの奉仕は誰にもできます。できる範囲でおささげします。祈りと共に、主に用いられたく願います。

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、眞の知識に至る新しき人を着たのである。

3:11 そこには、もはやギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

これが神様から私たちが賜った、創り主の形に従って新しくされ、真の知識に至る新しい人を着たという生き方です。

「ギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別」。ギリシャ人をユダヤ人は異邦人と呼びます。ユダヤ人は自分たちを割礼の民、神の民と言い、無割礼の民を軽んじます。ギリシャ人やローマ人は国が発展していく中で未開の人たちを軽んじます。スクテヤ人。これはローマ世界において、絶対的に異教であり、異端であり、無神論であるという見方をされていた人々のことです。ユダヤ人たちにはギリシャ人を異邦人呼び、ギリシャ人もローマ人も未開発の国々の人々を未開人と呼び、ローマの世界になぞらえて、それ以外の宗教を信じる者を異邦人であり異端と断ずるのです。

自由人は奴隸の身分の人たちを見下し、奴隸の人たちは自分たちを無慈悲に酷使する人たちを恨んでいるのかもしれません。

このようにして、それぞれがそれぞれを疎んじています。無理解という壁による分断です。人は、他者のみになって考えることがしばしば苦手です。立場を変えればわかる事であっても、なかなかそういった想像力を働かせることなく、自分の置かれた立場が正しいと決め込んで、他者を理解しないようにしているのです。

しかし聖書は、それらの差別はないと言います。この世界には、そのもろもろの人たちのグループの中に差別があります。乗り越えられない壁があります。どうやってそれを乗り越えたらいいのでしょうか。

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。

3:11 そこには、もはやギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

キリストがすべてなのです。キリストがすべてのもの内におられるのです。キリストは高き所にいます神様ご自身ですが、低いところに来られ、私たち人間として、庶民と共に時を

過ごしてくださいました。

ご自分の身をいけにえの代価として差し出すほどに私たちを愛されたイエス様のそういうお姿を見て感謝のうちに主に似せられたいと願うことが、「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着た」という事なのです。

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

「あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい」。

3:5 だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

3:6 これらのことのために、神の怒りが下るのである。

3:7 あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。

3:8 しかし今は、これらいっさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥すべき言葉を、捨ててしまいなさい。

3:9 互にうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。

汚く古く汚れた服を捨て去って、私たちはイエス様の心を身に着けるのです。素敵な、美しくかぐわしい香りを放つ、素晴らしいものを身に着けることが出来るとは、何という幸いでしようか。

「神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。」

私たちは神様に選ばれ、愛されています。憐れみの心で愛され、慈愛、謙遜、柔軟、寛容であられる神様からの愛を一身に受けているのです。ですから、私達もまた、受けたように愛のおすそ分けをしていこうではありませんか。

1ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の國、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべき光に招き入れて下さったかたのみわざを、あ

なたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

2:11 愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。

2:12 異邦人の中にあって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばかりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになろう。

「あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者である」という言葉は、繰り返し読んでも、実に素晴らしい言葉ですね。私たちは選ばれたもの、そして特別に取り分けられた聖なるもの、愛されている者。そして私たちは愛されて、選ばれて、神様の尊い御心の実現のために仕える者でありたいと願うのです。

ヨハネ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのこととを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

ヨハネ 13:34 わたしは、新しいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

13:35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

1 ヨハネ 4:18 愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしみが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。

4:19 わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。

4:20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

ガラテヤ 5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

(新改訳) 5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことではなく、

愛によって働く信仰だけが大事なのです。

3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍び合い、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

教会の中にも忍び合いが必要です。責め合うような時が訪れるかもしれません。しかし忍んで、またゆるすのです。それが神様が私たちになさってくださったことです。責めるべきことがあったとしても、赦しあうのです。主が私たちを赦して、何の弁済をも求めずに、イエス様の血の贖いによってただ赦されたように、私達もそのように許しあうべきことが記されています。

3:14 これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帶である。

そして赦すという事の上に、愛を加えなさいと聖書は語ります。赦せばそれでいいという事ではなくて、赦した上にさらに愛するのです。人の罪を帳消しにしてあげるのも大きな赦しの愛ですが、その上にあって、その人を積極的に愛していくのです。

「愛は、すべてを完全に結ぶ帶である」。愛は完成への、成熟への結び。絆、鞄帶です。

エペソ 4:15 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

4:16 また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。

「キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである」この心を抱きつつ、神様の知恵をいただき、赦し、与え、仕え、神様の愛、イエス様によって現わされた神の愛によって結ばれる。この素晴らしさが語られています。

分断の社会。容易に嫌悪感が醸し出され、違いが対立と確執を呼ぶ時代。その中にあって「すべてであり、すべてのもののうちにいます」主イエス・キリストが輝き出ますように。

私たちにとって、世界にとって、キリストがすべてなのです。

ガラテヤ 6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

新改訳 6:14 しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。

キリストの到来によって世界は一変したのです。私たちはキリストと共に「生き、動き、また存在している」のです。

使徒 17:27 17:27 こうして、人々が熱心に追い求めて搜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。

17:28 われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。

ローマ 1:14 わたしには、ギリシャ人にも未開の人にも、賢い者にも無知な者にも、果すべき責任がある。

1:15 そこで、わたしとしての切なる願いは、ローマにいるあなたがたにも、福音を宣べ伝えることなのである。

1:16 わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。

12 神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔軟、寛容を身に着けなさい。

3:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

3:14 これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帶である。

新改訳 3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帶として完全なものです。

「愛は結びの帶として完全なもの」

キリストのもとにあって人は愛され、赦しあい、仕え合い、一つになれるのです。キリストの愛。その十字架の死と贖いの愛により、私たちは救われ、赦され、命を得て一つになれるのです。世の中の価値観を一変させて主が教えてくださった言葉に心を向けて願うのです。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはあなたの右に、ひとりは左にすわれるよ

うに、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになろう。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。世の中は誰が上だとか、誰が下だとか、あの人とは考えが違うから相容れないとか、あの人は生理的に大嫌いとか、違いを乗り越えることが出来ず、互いを理解しようともせず排除し合う世の中ですが、イエス様は全てを完成させ、成熟させるきずなであられますからありがとうございます。造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達することが出来ますことを感謝しております。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン